

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・材料や用具について、掲示物や ICT を活用して導入時に説明したことで、児童が新たに扱う材料や用具に興味をもち、意欲的に作品に取り入れて表現することができた。
- ・材料や用具の使い方を試したり、表し方を考えて伝え合ったりする時間を多く設定したことで、学習経験を生かして材料や用具の使い方を工夫しながら製作することができた。
- ・思い付いたテーマや表し方などについて、振り返りカードや発表などの言語活動を通して共有したことで、自分なりの表し方を考えて活動しようとするすることができた。
- ・造形的な視点に関連する単語を掲示した上で鑑賞する活動を行ったことで、児童が自分たちの作品を形や色などの視点で捉え、見たことや感じたことを言葉で表現したり交流したりすることができた。
- ・毎時間の振り返りカードの活用によって各自が進捗を確認しながら、製作に見通しをもって活動することができた。

(2) 課題

- ・掲示や ICT の活用のみでは、安全への意識を十分に育むには至らなかった。グループで用具の使い方を確認し合うなど、安全に気を付けて活動しようとする意識を醸成していく必要がある。
- ・鑑賞する活動で児童の見方や感じ方を広げたり深めたりするためには、言語活動を通して自分と他の人の見方や感じ方を比べたり、よさに気付いたりするための手だてを充実させる必要がある。
- ・毎時間の振り返りカードの活用は、製作の進捗の可視化や見通しにつながった一方で、活動時間を圧迫している。記述の視点をより明確にしたり、写真の記録によって記述に代えたりするなどの対応を要する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） ※実施なし

(2) 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 多くの児童は、表現したいことに対して、材料や用具を工夫して扱うとができる。	○ 想像力を働かせ、自分なりに工夫しながら表し方を考えたり構想したりしている。 ○ 完成度の高さを求めすぎて失敗を恐れる児童もいる。	○ 児童が興味をもって活動に取り組めるように、題材名を工夫したり様々な材料を扱ったりすることで、意欲的に楽しんで取り組む姿が見られる。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 表現したり鑑賞したりするときに、形や色などの感じに着目し、諸感覚を働かせて形や色などの感じを捉えることができる。 ○ 自分の気持ちや感覚、行為、活動などを通して、活動や表し方、表現方法などを工夫したりつくりだしたりすることができる。 ○ つくりたいことに合わせて、材料や用具が適切かどうかを判断したり選んだりすることがあまりできない。	○ 見たり触れたりして捉えたことから表したいことを見付け、形や色などで表そうとすることができる。 ○ 体験したことや感じたこと、関心のあることから想像したことなど、自分が思ったことから表したいことを見付けたり表したりすることがあまりできない。 ○ 身近な材料や場所などに進んで働きかけ、形や色の感じ、自分のイメージなどを基に造形的な活動を発想することがあまりできない。	○ 表現の活動では、自分の表したいことを実現させるために粘り強く製作に取り組んだり、自ら新しい表現方法に挑戦したりすることが少ない。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 表現したり鑑賞したりするときには、形や色などの造形的な特徴に着目しながら活動することができる。 ○ 自分の感覚や思い、これまでの経験などを基に、造形活動を自ら充実させ、自分らしく技能を働かせることができる。 ○ 前学年までの造形活動の経験を生かして、活動や表し方、表現方法などを工夫したりつくりだしたりすることがあまりできない。	○ 形や色、イメージなどを基に、そこから感性や想像力を働かせて、自分なりに造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりすることができる。 ○ 空間に働きかけて捉えた特徴、自分のイメージなどを基に造形的な発想することがあまりできない。	○ 表現の活動では、表現に自信をもち、自分の表したいことを実現させるために粘り強く製作に取り組んだり、自ら新しい表現方法に挑戦したりすることが少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 用具の扱い方、安全への指導を徹底しながら、紙や身辺材料を中心に扱い、手や指先を使う経験を多くさせる。 ○ 製作時に相互鑑賞の機会を設けて、自分の表現に生かすようにする。 ○ 自分の感覚や行為を通して気づき、手や体全体の感覚を働かせ、表し方などを工夫して創造的につくったり表したりできるようにする。	○ 題材や材料のことについてクラス全体で話し合い、イメージをもって活動に取り組めるようにする。 ○ 言葉で表したり、楽しさを想起させたりしてから表現活動に入り、児童の思いを尊重しながら製作を進められるようにする。 ○ 自分や友達の表したいことや表し方に着目して、よさや面白さを感じ取り振り返りカードに表現できるようにする。	○ 個々の表現のよさに寄り添い、楽しみながら、自信をもって活動できるようにする。 ○ カリキュラムマネジメントの充実を図りながら、目的意識、相手意識をもてるような導入を工夫することで、児童が進んで学習に取り組めるようにする。 ○ 児童の実態に合わせ、形や色などに関わり、つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりできる題材選びをする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 授業の導入で、掲示物を用いて用具の特徴の整理を行うことで、選択の根拠を意識できるようにする。	○ 感じたことや考えたことを言語化できるよう、教室にキーワードを掲示することで、作品への多様な見方を広げ、鑑賞する力の基盤を育てる。 ○ 造形遊びをする活動では、教室内などを歩き回る時間を設定することで、場所や材料を探すことから発想へつなげる。	○ 製作をいくつかの段階に分け、今の自分が何を頑張っているのかを明確にすることで、粘り強く学習活動に取り組めるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 様々な技法や作品が掲載されているポスターなどを掲示することで、これまで扱ってきた技法や材料、用具などの選択肢を可視化する。	○ 教室や校内の空間を対象に、作品を展示する場所を考えさせたり、造形遊びをする活動の題材を多く設定したりすることで、空間に働きかけようとする意識を高める。	○ 製作前に自分なりの完成イメージを明確化し、授業後にどれだけ近付いたかを自己評価する時間を設定することで、自分なりの目標を持ち続ける意識を高める。 ○ 表現のヒント、素材の使

		い方、技法の見本などを 掲示し、自分で調べて解 決する環境を整備するこ とで、粘り強く学習しよ うとする態度を育てる。
--	--	---